

た報
第44号

上野東部だより

2019年12月15日
発行
東部地域住民自治協議会
総務広報部会
伊賀市緑ヶ丘東町920
上野東部地区市民センター内
TEL・FAX 24-3999

盆おどり



スーパーボールすくい



浴衣を着て踊って、
みんなで楽しもう!

2019

車坂町盆踊り大会 盛大に開催される

桜川好玉会の皆さん



やきそば屋台



残暑きびしい、8月24日(土)午後6時から東お旅所で車坂自治会主催、「あすなろ会」、「児童福祉会」協力で盆おどり大会が2年ぶりに盛大に行われました。

児童福祉会から事前に配布された「無料ジュース券」を手に子どもたちが次々と集まり、「綿菓子」「かき氷」「スーパーボールすくい」コーナー等に行列ができました。その他「やきそば」「フランクフルト」「ジュース・ラムネ・お茶」「生ビール」コーナー等の販売が町をあげて実施され、うちの無料配布もあり、子ども、お年寄り、若者たち約300名以上の人たちにぎわいました。

午後7時過ぎ日が暮れてきた頃から、いよいよ盆おど

りが始まりました。江州音頭を50年以上唄っている地元、「桜川好玉会(代表:桜川好玉)」のメンバーと本場滋賀県甲賀市から1名が加わりその歌声で盆おどりは始まりました。初めは踊る人の輪が小さかったのですが、どんどんと大きな輪となり、大盛況の中夜が更けていきました。

安全確保のため光るコーンの設置、警備保障の方々、地元車坂町の消防団の身守りもあり、無事、安全に終わることができました。子どもたちは夏休みのよい思い出となり、また町内の皆さん、近隣の方々が顔合わせをして楽しく過ごせました。今後も2年毎に開催予定とのこと、楽しみにしたいと思います。

〈取材:縄手 稔〉

「住むまちを地域で守る強いまち」



東部地域住民自治協議会
南会長

松村防災防犯
交通安全部会長

岡本
中消防署員

10月27日（日）、秋晴れの中、伊賀市民体育館で、「第12回東部地域住民自主防災訓練」を実施しました。昨年は多目的広場でしたが今年は伊賀市民体育館での防災訓練となりました。16の自治会から約380名が参加、今年も服部団地自治会から31人も外国人の方も参加されました。

この防災訓練は伊賀地域を震源とする直下型の強い地震が発生したとの想定で、中消防署の全面的協力のもとで行われ、参加者が4つの班に分かれて、「煙体体験」、「災害時のガス取扱い（上野都市ガスコーナー）」、「救護訓練」、「救出訓練」、「消火訓練」をローテーション式で行いました。特筆すべきは今回購入したデリバリーステーション（移動式大型調理セット）を試験使用しました。

イザというときのために着実かつ継続的に防災訓練していくことが大切であると実感した1日でした。

イザ、避難誘導訓練開始。 一時避難場所から訓練会場へ！

緑ヶ丘本町班は町内の運動遊園で一時避難のため、集合しました。29名（子供2名含む）の町民が訓練参加する。折りたたみのリヤカーにけが人を乗せて移動開始する！



避難誘導訓練

煙からの脱出は、低い姿勢で壁にそって、 ハンカチかタオルで口を覆い、 すみやかに抜けてください！

実際にテント内に入ってみると、まったく先が見えない状況でした。その状況が恐怖・パニックにつながっていくことを実感しました。「とにかく床面スレスレに這って逃げるのが大切と実感した」



煙体験

「もしも」の時に備蓄水を

ウォーターサーバーは停電時、断水時にも使用できます。そのため、非常時には強い味方になります。保存期間も1年間のようです。



防災機器展示ブース

と自主防災訓練

防災訓練2019

消火器は、家族皆が目につくところに置こう

消火器は初期消火で、人の背丈までの炎の時に使う。

手順は①火事だと叫んで周囲の人に知らせる

②安全ピンを抜く

③ホースを外し火元に向ける

④レバーを強く握る

以上4点に気をつけて！

消火訓練



救出訓練(タンカ)



救護訓練(心肺蘇生・AED)



救出訓練(止血と骨折)



簡易担架の造り方、吊り方 担架を吊る時ぎっくり腰に気をつけて！

簡易担架の造り方は毛布を広げ棒を2本、1/3のところで置き毛布を折る。(棒の位置が肝心)

「移動するときには足を前方にして吊ることが大事、と教えてもらい、参考になりました」



AEDの指示通り、落ち着いて使おう

AED準備中は心臓マッサージはやめない。

30回胸を押して1回は口に息を吹き込むことを3回やって、またAEDをする。それを救急車が来るまで続けることが大切です！

三角巾は各家に常備しておくと便利！

三角巾は止血や骨折にも対応でき、色々な形でも使えて災害時には必需品です。

もし家に三角巾がないときはタオルをつないで、またはバスタオルを使うのも1つの方法のようです。



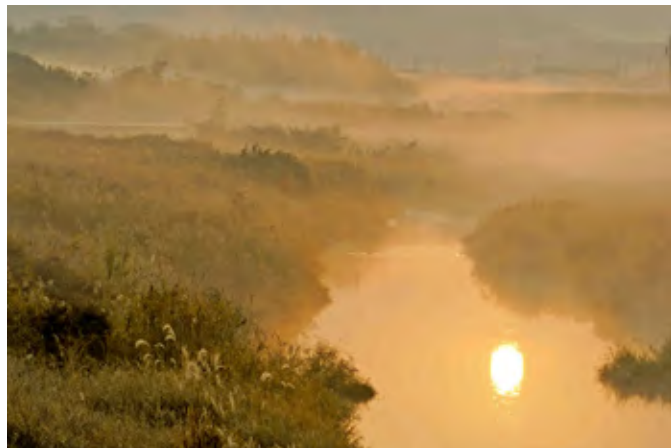
炊き出し

災害時の炊き出しは助け合って

今年より新しく導入したデリバリーステーションを使用した。燃料はLPガスで、お米5升が15分でたける釜、また100人(食)分のおつゆができる鍋がセットになり、災害時には活躍できる新兵器が我々を助けてくれるでしょう。

(取材：山本 史規)

前回第43号より、ぶらり東部シリーズ掲載しています。東部地域を歩いて散策し、美しい風景、季節の風物詩、史跡等再発見したいと思います。第1回目は、東部地域の桜の名所を掲載しました。東部地域の住民の方から「掲載した他にまだこんなよい桜があるよ」とのご意見をいただきました。来年の春はもう一度ぶらり東部をして桜の名所パートⅡの掲載を計画したいと思っております。



今回は、東部地区内で見ることができる幻想的な風景「服部川の川霧」を掲載します。単なる川霧は、伊賀盆地では数多く発生しますが周囲がなにも見えません。写真のように橋の下が雲海になった川霧の風景は、1年に1～2回ぐらいしか発生しません。11月から12月にかけて、雨がふって翌日がよく晴れて、風もなく、冷え込んだ朝に発生しやすいです。

(取材：縄手 稔)

サークル活動の紹介

①



オカリナサークル「きらきらぼし」

今回号より、東部公民館で活動しているサークルを紹介します。第1回は、オカリナサークル「きらきらぼし」です。

ある日、絵手紙を作成中メンバーのひとりがオカリナを演奏し始め、その音色にひかれたのが始まったきっかけです。

2008年頃活動を始めた時は8名でしたが、現在は18名にまで増えました。川口先生の指導のもと、毎週水曜日の午前中練習をしています。サークル名「きらきらぼし」の命名は、絵手紙「いろは」の森田先生です。

年間の活動内容は、発表会は毎年12月頃1回開催し、1年を通して「敬老会」、「いきいきサロン」、「世代間交流会」等各種イベントにボランティア活動20回ぐらい参加しております。

サークル活動を通じてよかったことは、音楽を通して多くの人と人との巡り会いです。「人生前むきに輝いていよう」をモットーに、これからも更なる仲間づくりとオカリナのやさしい音色を一人でも多くの人に聞いてもらいたいと思っています。

「ポケットのすみに入り、誰にでもできるオカリナ演奏を一緒に楽しみませんか」と呼びかけています。

(取材協力：竜瀬くみ代)



オカリナ演奏の練習



オカリナサークルきらきらぼし発表会(2018.12.1)



創作盆景「流工房」

緑ヶ丘中町 山本 敏明 様



〈田舎の庭先〉

■展示のきっかけは？

趣味で始めた作品を、銀行で展示したことから「伊賀まちかど博物館」につながり、いろんなイベント等で展示をしたところ、大きな反響に喜んでいました。人の目に触れることが嬉しいし、何かを感じてもらえればと思います。



〈京の町屋〉

■こだわりは？

懐かしい風景を作るために

1. 庭を造ること
2. 人物を入れないこと
3. 自分のイメージだけでつukらないこと

この3点にこだわり、いまでも創作盆景に励んでいます。

(取材：安場 豊)



■始められたきっかけは？

子どもの頃から工作が好きであり、いろいろと趣味がありましたが、15年位前に、盆栽の鉢の中に自然の風景を閉じ込めることを思いつきました。

しかし、植物を使うと成長や変色があるので、植物を除いたものが、創作盆景の始まりです。

その後、創作盆景「流工房」と名付けて活動を始めました。あくまでも自分流です。



〈灯笼・手水鉢など〉

■作品をつくる上での苦勞、失敗は？

既製品の作成方法がないときは、手持ちの材料で作ってみます。その後、新たに材料や方法が見つかれば、手直ししながら作成しています。良い材料が見つかれば、手直しする楽しみがあります。

また、妻に、アドバイスや材料探しなど、協力してもらっています。

いったん製作に取り掛かると、早く完成したく、他のことが目に入らず夢中になることを反省しています。



〈自慢の作品を前にして〉

講演会「藤堂高虎を語る」開催

いがうえの語り部の会

会長 辻野和彦さんをお迎えして



8月3日(土) 午後2時から東部公民館において参加者40数名の中、ご講演をいただきました。

「学生時代から、伊賀に生まれ、伊賀に育った人間として、伊賀を知り、伊賀を誇りに思い、伊賀の宝として知り得たことを皆さんにお

伝えたいという思いが募り現在にいたっております……。」という伊賀の里への熱い思いからお話しが始められました。

最初高虎が初陣を飾った姉川の戦いでは、もう既に(当時15歳)6尺2寸(約190cm)、30貫(110kg)の大きな体格の持ち主であったことに驚かされました。当時は大人の平均身長が155cm程度であったことから、現代を含め当時から随分体格に恵まれていた武士だったようです。

だだ15歳の時の初陣から、浅井・阿閉・磯野・織田と何人かの大名に招かれますが、なかなか実績を認められず、ようやく20歳の時に羽柴秀長に300石で招かれ、大名としての出世が始まり名前も高虎と呼ぶようになります。

天正14年家康は豊臣秀吉に臣従を誓い、上京後の住まいをつくることを秀吉に命じられる。高虎が普請にあたったこの京都屋敷を家康が悦び、家康との親しい関係が始まった。その後幾多の参戦により、伊予宇和島7万石、関ヶ原の戦い後、今治20万3千石と外様大名ながら譜代大名以上の信頼を家康から受けます。

そして慶長13年大阪の秀吉方への備えのため、家康に信頼の厚い高虎が伊賀・安濃津へ転封、22万950石の領主となります。

そして伊賀上野城の改築にあたり、高虎の築城術による高さ日本一ともいわれる高石垣が今なお見事に残っています。

終わりに高虎の人物像として、恩義を重んじ、時勢を読み解き、先を見極める人等にまとめていただき、私たちの郷土史の誇りとして、興味深くお話を聞かせていただきました。

編集後記

今年も残すところ後わずかとなりました。今年は大きな変化がありました。新元号になり、10月から消費税10%がスタートしました。軽減税率やキャッシュレス決済のポイント還元などをうまく利用していきたいですね。

スポーツはラグビーW杯が日本で開催され、ラグビーを筆頭にいろいろなスポーツが盛り上がりを見せています。来年の東京オリンピックもすごく楽しみです。

今年も東部地域住民自治協会の活動にご協力いただき、誠にありがとうございました。来年もご協力の程、よろしくお願い致します。(河内 ちえみ)

ホットコーナー

「サンタさんへのお願い」

